

連珠っておもしろい

九段 河村典彦

● 第118回

■詰連珠の作り方

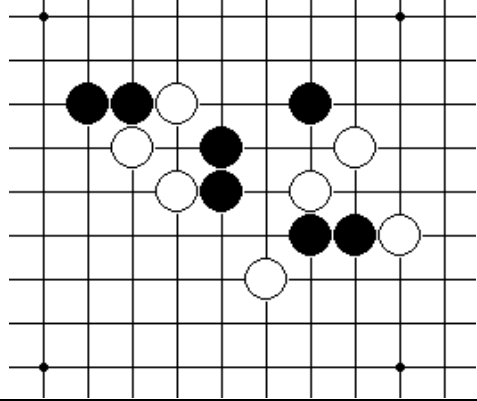
連珠社のホームページがリニューアルされ、毎週掲載されていた詰連珠も再度作り直すことになった。と言うか、同じ問題を見直す作業になったわけだが、改めて見てみると少々難しく感じると感じた。最近八王子で初心者指導をするようになったが、簡単な詰連珠でもなかなか難しい。そこで、従来の初級を中級にするレベル変更を行った。今回は詰連珠の作り方を書いてみよう。

《初級》黒の三、四三

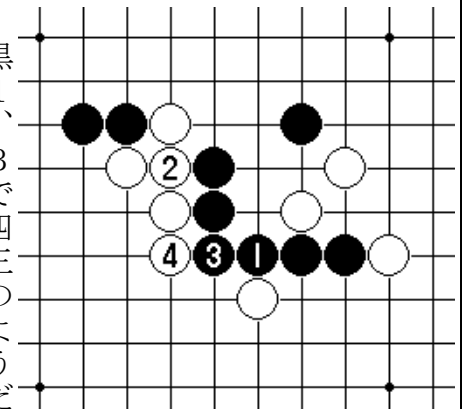
やはり連珠の基本は黒での勝ち方だ。その勝ち方は三、四三で学ぶのが効果的である。簡単に作れるが、何か一つ手筋を入れたい。よくあるのがノリ手である。

例を見てみよう。

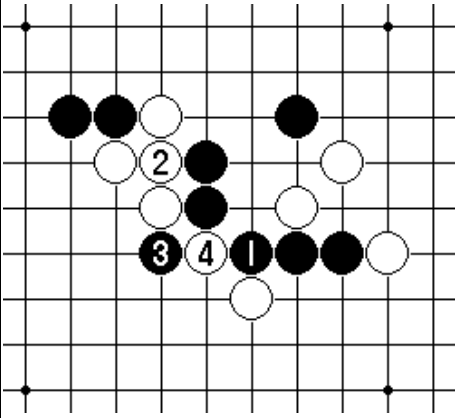
【黒先で四三を作ってください】



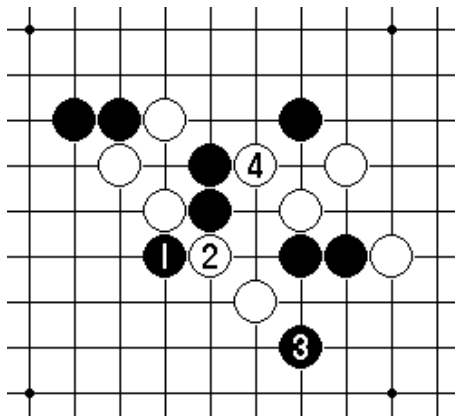
天元黒石、黑白同数、石数10個以内でコンパクトに作図、というのは前提としてあり、あとはそれに手筋をいかに加えるかである。さて、右図で三、四三を指そうとすれば剣先や連が必要で、三を作る場所が複数箇所あり、パツと見えてう図になっている。とりあえずは初級の中でも難しい問題になっていそうな雰囲気である。まず目につくのは黒1のトビ三である。



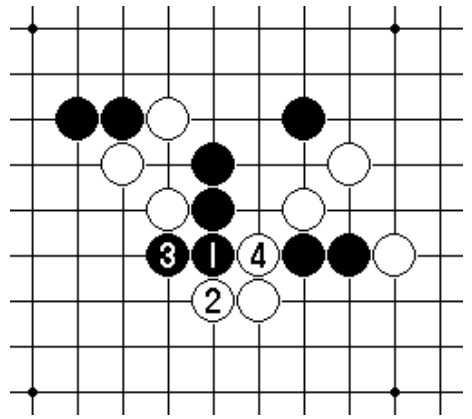
黒1、3で四三のようだが、白4でノリ手になっている。あ、最後の四三がノリ手なのね、ということである。最後の四三の場所を変えてみる。



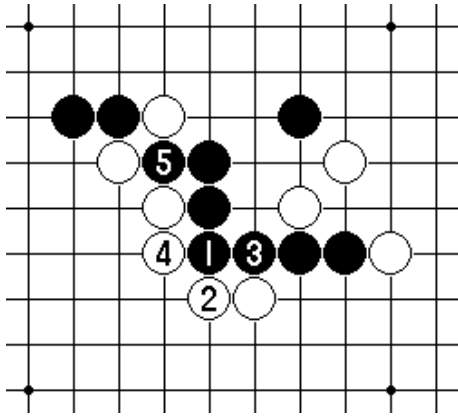
しかし、これも白4でノリ手になる。こういうノリ手はなかなか気が付きにくい。また、最初に黒1と打つと先に白2と四ノビをされてしまう。



そでは、先にこのノリ手を切っておけば良いということになる。そこに気が付くのが最初の関門である。この問題はもう一つ罫が用意されている。それが次の図となる。詰連珠を作る時は、失敗図を想定する場合が多く、この問題もまずはこの図が浮かんだ。



黒1、3で四三！と思いきや、白4で絵にかいたようなノリ手である。なので、正解は黒3である。

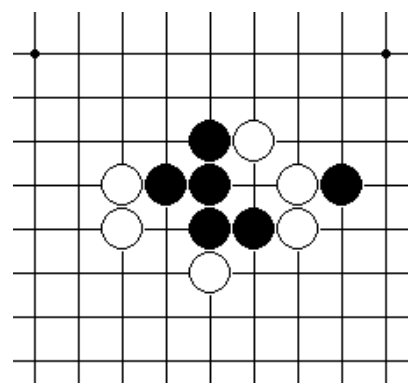


これを一発で見つけるのは結構難しい。何回も失敗を繰り返すのを想像するのを作った側の喜びでもある。これでノリ手の実例を学んでもらいたいと思っっている。また、同様に一手打って両ミセも同じで、こちらも実戦で使うことが多いので、作っていききたい。

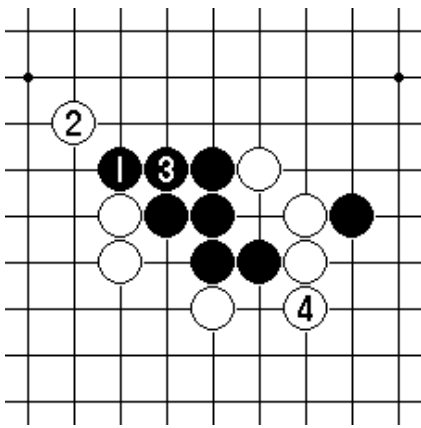
《中級》黒の三、三、四三

中級の基本は三、三、四三である。こうなると一気に難易度が上がる。詰将棋で言えば三手詰めが五手詰めになったようなものである。ちよつと長くなると詰め上がりの図がすぐには見えないのが難易度の上がる要因でもある。作る方もこのぐらいの方が作りやすくなる。初級と同じようにまずは失敗図から想像して作るのだが、罫を2つぐらい入れることも可能になる。では、早速例を見てみよう。見た目がシンプルなので結構好きな問題でもある。

【黒先で四三を作ってください】

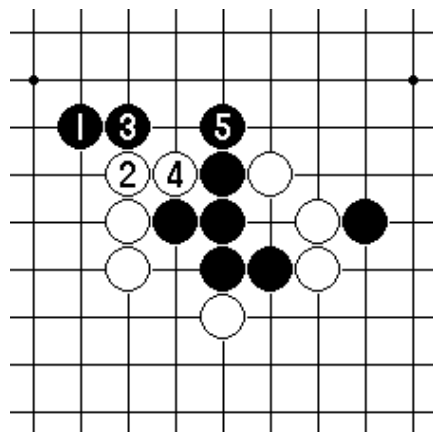


剣先が一つあるのでそれに目かけて四三を狙うのだが、打ち出しに迷う所もある。



まず目につくのがこの黒1で、何も考えずに打てば

こうなるだろう。続いて黒3で勝ちが見えそうになるが、白4でノリ手になり失敗だ。また、黒1で3も白4に止められてノリ手になる。



ここは黒1とトビ三を打つのが正解となる。白2が三になるだけに打ちにくい。黒3と止める手がぴったりで、勝ちになる。黒1は心理的盲点になる場所。こういう所が狙いとなるように作っている。詰連珠作成はライフワークとして続けていきたいと思っっている。